

# 怪獣 母ちゃん 奮闘日記

4人の子どもを育てる母  
ちゃんが、家族、子育て、  
自分のことなど日常のあ  
りのままをつづります。

書く人／辻登志江さん

夫、三男一女と暮らす。岡山県出身、結婚を機に2012年より徳島へ。やることのすべてを書き出して常に持ち歩いているメモ、眼鏡が必需品。妹さんの形見である車用の眼鏡フレームは思い入れもひとしおで、無くすとパニックに。「つながり農園」主宰、元作業療法士。43歳。

## 怪獣と探し物事情

とある日の夕方、母ちゃんは「わー、母さんの大事な眼鏡がない！」と叫んだ。怪獣の動きも止まる。「え！今かけとーでー」「違うの。これは車用で、お家の中用がないんよー。外で一回かけたけん、どこかで落としたかなあ。知らん？」「知らん。この前作つたやつ？ 高いやつ？ えー、探しに行こう」と、怪獣たちでも待てよ、1日の予定が終わってやっとな帰宅して、ここから就寝までが大仕事なのに、今から怪獣連れて探し物とか無理だ。諦めよう。「あかん！ ご飯は後でいいから探しに行こう」と、怪獣たちは諦めない。うーん、よし、眼鏡探し開始！ 車で出発！

記憶をたどり、とある駐車場に到着。訪れた時と同じところに停めたら、やんちゃそうな若いお兄様たちが高級そうな車を数台停めて、車の後ろに座っている。すかさず怪獣1号が「ねえねえ、お兄さんの車かっこええなー。なんでここでおかし食べんの？」と、話しかける。焦る母ちゃん。すかさず「あのー、眼鏡をなくしちゃいます。夕方ここに車停めたんですが、落ちてなかったでしようか？」って聞いたなら、「え？眼鏡つすか？ 大変つすね」とか「あの子達めっちゃかわいくね？」とか言っていて、一緒に探してくれた。嬉しいなあ。世の中捨てたもんじゃないなあ。眼鏡はなかったけど、みんなで「あり



怪獣母ちゃんと眼鏡捜索隊。母ちゃんの後ろが怪獣1号ゆいた(6歳)、向かって右側が2号じんと(4歳)、左側が3号みつる(3歳)、前側が4号しほ(1歳)。母ちゃんがかけている眼鏡は車用(フレームは実妹の形見)で、みつるが持っているのが捜索された眼鏡。

がとう、ばいばーい」ってしてたら、また怪獣1号が「お兄さんなんでもここで！」って始めるから、母ちゃんはまた焦って「ありがとうございましてー！」って怪獣たちを車に押し込む。

次は交番に行つて紛失物手続き。強面のおまわりさんも、4人連れている上に「眼鏡」って言ったら、「はいはい」ってほのぼの相手してくれる。怪獣たちはおまわりさんと楽しんじゃって、母ちゃんだけが眼鏡に必死。

翌日気を取り直して、再び眼鏡探しに車で出発！「あれれ？ 足元に転がってるの、眼鏡じゃん！ うおー、やったー、よかつたね、母さん」って、怪獣たちが母ちゃんの頭をポンポンとしてくれる。なんも言えない、母ちゃん。眼鏡がないから眼鏡が見つからなかつた、って、ドリフ風のコントみたい。お母さん友だちに話したら、二十代はドリフターズを知らないって…母ちゃん、またなんも言えない。

怪獣道は未知で果てしない。